

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1272000298		
法人名	株式会社 楽天堂		
事業所名	スイートホーム うなかみ		
所在地	千葉県旭市蛇園3060-1		
自己評価作成日	平成22年2月22日	評価結果市町村受理日	平成22年5月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

のどかな田園風景と静かな住宅街に囲まれた施設の中で、明るく素朴な職員達と家庭的ななか、日々穏やかに暮らされています。法人内外の医療連携も整っており、利用者様・御家族様共に、安心して過ごして頂ける体制ができております。お近くへおいでの際は、お気軽にお立ち寄り下さい。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「スイートホーム うなかみ」の敷地内には、芝生の敷かれた庭や広い駐車場があり、草木の手入れ・お茶のみ・散歩等が可能となっており、気軽に外の空気を楽しむ事ができるようになっている。また、自然に囲まれ、入居者が穏やかに過ごせる環境が整っている。入居者との共同生活を理念や方針に掲げ、共に支えあう関係を大切にしている。家庭的な施設運営を目指しており、職員と入居者が楽しみを共有できるよう努めている。法人内の連携を活かし、福祉車両を使った外出活動や小規模多機能施設との交流行事等が実施されており、入居者の生活の活性化が図られている。

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyu.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 日本ビジネスシステム		
所在地	千葉県市川市富浜3-8-8		
訪問調査日	平成22年3月12日		

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

自己評価および外部評価結果

〔セル内の改行は、(Alt+-) + (Enter+-)です。〕

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	玄関および事務所に理念を掲示し、毎朝の申し送り時に確認する事で全職員が共有し実践できるよう努めている	「共生」という社是と、「助け合う心、ゆとりある生活、お互いの個性を尊重し、ぬくもりを笑顔に」を主眼にした理念を掲げている。毎日の朝礼や、ミーティングの際に唱和し、全職員が日々、理念や社是を確認している。行動指針・身体拘束排除宣言も掲示され、日々、実践に向けて努力している様子がうかがえる。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域行事等には利用者と共に積極的に参加している	施設を開放しており、地域住民の方が来訪する機会が年々増えており、交流が深まっている。夏祭りや神輿見学等の地域行事に参加しており、入居者の生活の活性化に繋がっている。また、地域の小学生と資源回収を行っており、地域貢献・世代間交流が図られている。	施設行事において、地域住民に参加の呼びかけを行っているが、現在の所、実現には至っていないので、今後も継続的に参加の呼びかけを行い、地域住民を交えた施設行事の開催を実現して頂く事を期待します。
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族会・運営推進委員会等を通じ、地域の方々にもご理解いただけるよう取り組んでいる		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	家族会や運営推進会議の場を通じホームの取り組みや今後取り組んでいきたいことを伝え、参加者よりいただいた意見を反映させ実現に向けて取り組んでいる	市役所職員・自治会長・地域消防署員・家族等を構成員として、年に3回、運営推進会議を開催している。会議においては、施設活動の報告や質疑応答を行い、施設理解の促進を図ると共に、意見・情報交換を行い、サービスの質の向上に努めている。また、消防署立会いの消防避難訓練を実施する等、地域との協力体制の構築にも活用している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者や日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月初に入居者、待機者名簿を提出し、その際些細なことについても相談に乗っていただいたり年3回の運営推進会議にも出席しえいただき、また地域ケア会議等も毎月積極的に参加している	市役所に対して、相談や報告等を随時行い、密に連携を図っている。また、市の主催する「海匠ケアマネ連絡会」に参加しており、連絡会を通じて市と意見・情報交換を行い、相互にサービスの質の向上に取り組んでいる。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを活用し、玄関ポーチに人の出入りの際に鳴るチャイムについてはありますが玄関の施錠はせずに門扉もつけていません。全職員が認識し、拘束のないケアの実践に努めています	「身体拘束排除宣言」を掲げていると共に、マニュアルの整備や研修の実施・参加を行っており、身体拘束排除についての意義を職員全員が理解している。日中は玄関の施錠はせず、入居者の自由な生活を支援している。また、玄関には、センサーチャイムが設置されており、入居者の安全確保がなされている。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止マニュアルを活用し、職員に周知するとともに虐待がないよう、職員同士が注意を払っている		
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在対象となる方はいないが、一部の職員は学ぶ機会を持ったが全職員の理解には至っていない。以前利用されていた方はいたので必要時には支援できる体制が整っている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入退居の際には、契約書・重要事項説明書を用い、家族利用者と十分な話し合いを持ち、理解納得していただいている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	各利用者に担当職員を決め、話しやすい雰囲気を作り利用者より意見や苦情、不満等の訴えがあった場合には管理者へ報告すると共に直ちに対応するよう心がけている	家族の面会時や電話連絡時等に意見・要望等を確認している。挙がった意見においては、会議にて周知・検討しており、適切な改善に努めている。また、入居者の様子を毎月家族に写真付きで送付しており、より詳細な生活状況を報告している。	家族会の設置・入居者アンケートの実施等を予定しており、今後は、入居者・家族の意見・要望等の確認をより積極的に行い、有効活用する事で、サービスの質の向上に繋げて頂く事を期待します。
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の所長会議の中で職員の意見や提案を反映させてる	定期的に会議を開催しており、職員の意見や提案を確認する機会が設けられている。また、日頃の業務において、管理者が個別に話をする機会を設けており、職員の意見や思い等を把握するよう努めている。なるべく職員一人ひとりの意見を引き出せるよう意見の言いやすい職場環境の整備に努めている。ポーリング大会・旅行・新年会等を開催し、職員間の交流やストレス解消に配慮しており、働きやすい職場環境作りに取り組んでいる。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	勤務希望をなるべく取り入れ職員全員が働きやすいよう考慮している		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県の社会福祉研修センター主催の研修等、積極的に参加している		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	ブロック交流会や市内の介護保険事業所交流会にも参加し、他事業者との交流を持つよう努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居の前には利用者本人に面会し、ADL面だけでなく不安や精神面でのアセスメントを取るようしている		
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族より入居前の生活について情報を入手することに努め受容的態度を心がけている		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者・家族を取り巻く現在の状況を把握するよう努めている。その上で努力や希望家族のkぼうを伺い、そのとき最良の方法を一緒に考えられるようしている		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	人生の先輩である高齢者の方々からいろいろなことを学ぶ機会も多くあり、本人の活躍場面を作るよう、生活を通じて共に時間を過ごす中で会話を大切に、本人の意思を尊重している		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族とのコミュニケーションを大切に、利用者の介護者として共に考え利用者を支えられるよう務めている		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人より情報収集に努め希望時に電話や手紙を利用したり馴染みの人との交流や場所への同行の支援に努めている	入居者の友人・知人等の面会や来訪は制限せず、馴染みの人との関係の継続を支援している。また、家族との外泊・外出等が自由となっており、家族との関係継続に配慮している。入居者にとって馴染みある地域の伝統行事に参加し、入居者・職員・地域住民等が共通の話題を楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の声かけや手助けを自然に行っているあたたかい関係作りが見られる。時に問題が生じた場合は、利用者同士の間に入り良い関係が取り戻せるようつとめている		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	様々な理由や事情により施設を退所する事があった場合でも本人や家族に差し支えない範囲で訪問している。また、葬儀にも参加させていただいている		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人とコミュニケーションを密に行うようにしている。コミュニケーションの困難な方は、表情やしぐさを見落とさず、ご本人の希望に添うよう努力している	入居時に、本人・家族から意向・生活歴・身体状況等を確認している。必要に応じて、医師の意見書や他事業所から情報提供を受けており、より詳細な情報の把握に努めている。また、日々の生活状況を記録すると共に、会議において情報交換しており、常に新しい情報を職員全員が共有している。	入居者・家族に対しての意向・要望アンケートの実施を計画しており、今後は、アンケートの結果を活用し、一人ひとりの意向の把握をすると同時に、本人本位の支援を実践して頂く事を期待します。
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	センター方式のアセスメントえお導入し把握に努めている		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎朝のバイタルチェック、週1回の訪問看護ステーションによる健康チェックの他、日々の状態は個人記録に記入し、申し送り職員同士報告しあい、一人ひとりの現状の把握に努めている		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回職員全員参加によるミーティングを行い現状と今後の課題についての意見交換をし、ご家族に報告したうえで介護計画を作成している	本人・家族の意向をもとに、職員全員で話し合いを行い、介護計画を作成している。毎月、介護計画の評価及び目標の達成状況の確認を行っており、必要に応じて介護計画の見直しを行っている。また、本人・家族の意見や要望の確認を行うと共に、随時、相談を受け付けており、意向に沿った介護計画の作成に努めている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個別の介護日誌に毎日の様子を記録している。また、体調の変化や注意点については申し送りノートを用意し、全職員が情報を共有した上で、介護計画の見直しに役立っている		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	月1度の外出援助の他、当社のデイサービス等の催しへの参加も行っている		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	年2回消防署に協力していただき防災訓練を行ったり図書館公民館等が利用できるよう支援している		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	当事業所の協力医院をかかりつけ医とし、2週間に1回の往診を受けている方や、家族が希望する医師に受診する方もいる。日々の状態等も報告し、適切な医療を受けられるよう支援している	協力病院を中心に希望のかかりつけ医への受診が可能となっており、希望に応じて職員が通院の付き添いを支援している。また、定期的に内科往診が実施されており、適切な医療支援が行われている。週1回訪問看護が実施されており、入居者の健康管理が行われている。緊急時においては、協力病院や訪問看護と連携し、適切な対応が図れるよう体制を整えている。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	社内の訪問看護ステーションと連携を取り、週1回健康チェックを受けていただき、体調の変化があれば報告をし、助言を受けたり急な体調変化の場合にも連絡を取り相談をして適切な対応ができるようにしている		
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	生活状況について情報を伝え定期的に見舞う等にし、安心して過ごせるよう支援し、情報交換を行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
33	(12)	<p>重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に説明を行い納得・ご理解を頂いたうえで事前確認書を作成している。また、医師や看護師とも話し合い方針を共有し、支援に取り組んでいる</p>	<p>契約時に、重度化・終末期における方針・対応方法を説明し、同意を得ている。また、必要に応じて、随時意向を確認しており、終末期における相談を行っている。重度化した場合には、終末期計画を作成すると共に、医師・看護師・家族等と話し合いを行い、意向に沿った終末期を支援できるよう体制を整えている。</p>	
34		<p>急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている</p>	<p>誤嚥の対処方法や救急救命法の研修を定期的に行っている</p>		
35	(13)	<p>災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年2回、利用者参加の避難訓練を行い消火器等の訓練指導を受けている</p>	<p>火災報知機・自動通報装置・消火器・非常持ち出し袋等が設置されていると共に、平屋建ての構造を活かして複数の避難経路が確保されている。消防署立会いのもと、年2回、消防避難訓練を実施している。夜間想定訓練等を行い、様々なケースに対応した避難方法を身に付けている。また、救命救急講習を受けており、緊急時における対応方法を習得している。</p>	<p>非常災害時に備え、入居者の生活するスペースの安全確保において再度見直しを行い、棚上の荷物等の危険個所の整備をして頂く事を期待します。</p>
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	<p>一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている</p>	<p>親しみやすい雰囲気を出しながらも誇りやプライバシーを尊重した言葉掛けや態度を心がけて対応している</p>	<p>プライバシー保護に関するマニュアルの整備・研修の実施等を行っている。また、失礼のない言葉使いを基本とし、その人に合った言葉使いを用いており、本人らしい生活の支援に努めている。体験入居を実施しており、入居者の性格や生活歴等を把握し、本人の生活ペースを壊すことなく、安心して生活できるよう配慮している。</p>	
37		<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている</p>	<p>常に本人の希望を第一と受け止め対応し、言葉による意思表示のできない方についても表情やしぐさから判断し、自己決定できるよう支援している</p>		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一日の決められたスケジュールを押しつけるのではなく一人ひとりが自分のペースで毎日を過ごせるよう支援している		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	一人ひとりそのひとらしさが出せる服を選べるよう支援したり、2ヶ月に一度理容師に来所していただき希望する方は散髪をそていただいている		
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者と職員と一緒に食事を取り、必要に応じて刻み食やミキサー食にした り、好みに応じてメニューの変更をする	入居者の希望や能力に応じて、食事の準備や片付け等を共同で行っている。献立や食材においては、業者に委託しており、栄養バランスに配慮した食事提供がなされている。職員が入居者と同じ食卓を囲み、会話を楽しみながら食事できるよう配慮すると共に、季節を取り入れた行事食の提供・外食の実施・手作りオヤツの実施等を行い、食に対する楽しみを支援している。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	昼・夜は高齢者福祉食を提供し、毎食毎に摂取量を記入している。また、必要に応じて刻み・ミキサー食を提供している		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	一人ひとりの能力や状態に応じて声かけや介助をしながら口腔ケアをしている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を作成し、パターンを把握して個別にトイレ誘導し、なるべくトイレで排泄できるよう支援している。リハビリやオムツも状況に合わせて日中と夜間を使い分けたり、夜間のトイレ誘導もやっている	排泄チェック表を活用し、個々の排泄パターンの把握に努めており、適切な声掛け・誘導にてなるべくパットやオムツを減らすよう取り組んでいる。夜間においては、ポータブルトイレの使用やトイレ誘導等にて、排泄支援を行っている。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量にも気を配り飲食物等も工夫しながら、医師や看護師にも相談している		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	毎日入浴時間を設け、体調に合わせてシャンプーやひげ剃り等、自力または介助にて行っている。入浴を嫌う方もいいますが声掛け等工夫し、なるべく入浴できるよう支援している	入浴においては、毎日実施しており、希望に応じて回数等柔軟に支援している。また、清拭・シャワー浴・足浴等を実施しており、入居者の清潔保持に努めている。入浴拒否においては、その人に合った声掛けや時間の変更等にて、無理強いしない入浴を実施している。脱衣所には、ヒーターが設置しており、冬でも快適に入浴してもらえるよう配慮している。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の散歩やドライブ、庭の手入れ等で生活にメリハリをつけ夜間も安眠できるよう支援している		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個別の薬ケースを用意し、説明書と一緒に保管し、内容がすぐに確認できるようにしている。処方が変わった場合は、申し送り帳に記入し、口頭での申し送り時にも確認している		
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除や洗濯、調理・縫い物等を手伝っていただいたりしている。タバコも喫煙場所を決め、楽しむ方もいる		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	<p>日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している</p>	<p>希望にあわせ体調や気候を考慮しながら散歩やドライブ等出かけ、月に一度季節に合わせて外出・外食をしている。ご家族との外出もされている</p>	<p>日頃から散歩・買い物・ドライブ等の外出支援が行われている。毎月、行事を企画・実施し、初詣や外食等が行われており、入居者の生活の活性化に繋がっている。また、法人経営のデイサービスから福祉車両を借りる頃が可能となっており、外出活動の幅を広げていると共に、法人経営の小規模多機能施設との交流行事が行われており、外部の人達との交流が図られている。</p>	
50		<p>お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>	<p>ご家族からお金を預かり管理している。それとは別にご本人が財布を持っている方もおり、ご近所の喫茶店に行かれたり、職員と一緒に買い物に出かける時もある</p>		
51		<p>電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>	<p>手紙・電話はいつでもできるよう、常に支援している</p>		
52	(19)	<p>居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>玄関やフロアに装飾を施し季節感を出したりフロアにはテレビやソファを置いて利用者同士と一緒に楽しんで過ごせるようにしている</p>	<p>施設内は、バリアフリーとなっており、十分な介助スペースが確保され、入居者の安全面に配慮した設計となっている。敷地内には、庭や駐車場等があり、草木の手入れ・お茶のみ・散歩等をする事が可能となっており、気軽に外の空気を楽しみ事ができるようになっている。リビングには、ソファーやテーブルが設置されており、入居者が思い思いにくつろぐ事が可能となっている。また、日々の清掃や害虫駆除剤の使用により、施設内の衛生管理を徹底している。</p>	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食食用テーブルを2つに分け、気のあった方同士で座れるよう配慮する		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ご家族や家の写真を飾ったり、それぞれ居心地の良い空間になるよう工夫している	希望に応じて、馴染みの物を持ち込む事が可能となり、居心地良く生活できるよう配慮している。また、畳・絨毯・布団等を使用する事が可能となり、入居者の生活歴に合わせた居室作りも行われている。各居室に、エアコン・換気扇・呼び出しインターホンが設置されており、快適性や安全面に配慮した造りとなっている。希望に応じて、鍵を設置する事が可能となり、入居者のプライバシーの確保もなされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手すりの設置や浴室でのシャワーチェアの使用等、安全面には工夫し、働きかけている		